

波紋 Ripple



発行者：森松株式会社 編集者：小原龍一 伊藤雅典
小坂美香 伊東義弥
創刊号：1985年7月(昭和60年7月) 松井宣和 大石耕平

No. 317号 平成23年11月
2011 Nov.

元気が出る森松展



「ご来場ありがとうございました 第19回元気が出る森松展！」 274名の来場者を迎え無事に終了することが出来ました。次回第20回も、皆様のご来場をお待ちしております！



【森松展ご来場御礼】

社長 森 直樹



10月13日から14日までの2日間、第19回元気が出る森松展を開催いたしました。ご来場頂きました皆様、大変ありがとうございました。改めて、森松展という一つの場に皆様と集まることでスムーズな情報の交換だけでなく、その場にいる人同士のつながりがより深まり、新たなアイデアも生まれる空気が出来ると感じました。

二日間で、総計274名の方々にお越し頂きました。今後も継続して本社5階にて展示しておりますので、今回見逃してしまった方々もぜひお越しください。

弊社のような中小企業では、展示会はその総力戦です。展示会開催の告知、出展企業の選定から、商品サンプル作成、そして当日の駐車場案内、受付・・・と全員がそれぞれの立場で森松展を支えております。また展示会を通じて、直接普段面することのない方々と触れ合うことで、営業のみならず、各従業員の意識をお客様の視点と近くしていけるきっかけが出来ればと思います。

次回はいよいよ森松展は第20回を迎えます。20回という回数で積み上げてきた経験を生かし、最高の展示会を皆さんにお見せできるように努力して参ります。皆様ご期待ください！

加齢にもめげず 『まじめに働く君』に送る

牧野 光昌 (営業企画部)



「まじめに働く」ということを2文字で表せば「勤勉」という言葉になるのかなあ。この言葉の響きはとても崇高で、尊いものだよね。ヒビキは・・・でもねえ、「まじめ」という行動は、一歩間違えれば進化を妨げる大きな要因になってしまうこともあるんだよ。どういう事かといえば、「崇高な言葉」の上にあぐらをかき、本来すべき問題の改善という必要不可欠な行動を棚上げにしてしまつて、旧体制のままの方法でただひたすら「勤勉」を続けたとしたら・・・それは現代社会の中では間違いなく「不真面目」なんだよねえ。つまり「思考」という行動が伴わない「真面目」はもう現代には存在し得ないんだよ。「思考」すなわち「改善」だよ。「改善」のない仕事の仕方は「無駄の温床」以外の何物でもないんだよ。例えば、睡眠以外で自分が「思考」を停止するという事は、自分自身の存在を拒否する事に近いと思わないかい。なにー、「ボーッ」としてするのが好きだとお！もしかして君は、君自身の思考が停滞し、回りの状況が濁つた時、「まじめに働いているのに今の自分の環境が濁りだしたのは誰かのせいだ。」と言つて犯人捜しをしてるんじゃないのかい。「君にとつて気安い人」だけを周囲にはべらせて、得意なことだけを、やりたい時にだけやる。そんな環境を正しい世界と信じ、あこがれているんじゃないかね。そんな状態になつたら、回りは濁りから濁みへと変わる。そして濁みは視界をさえぎり、呼吸さえも出来ないようなドロドロのヘドロに。今、君はそのヘドロの中へ沈没しつつかある事にも気付いてないのなら末期症状だねえ。急変化しつづける現代においても、会社の中で起きている「問題」の多くは、人が関わっているんだよ。よく観察してみると「ありがちな現象」が起きていてるだけのことなのだよ。それらは「思考」という習慣を持った人が多くいれば解決ができる「問題」なんだけど、そうでない人が「問題」の深刻化に協力しているから、「思考」という習慣のない人が多数派であれば、無進化・無結果・長時間労働という三重苦の中に会社全体が埋もれていくことになるんだ！今の君は自分がどっちの人だと思つてる・・・？

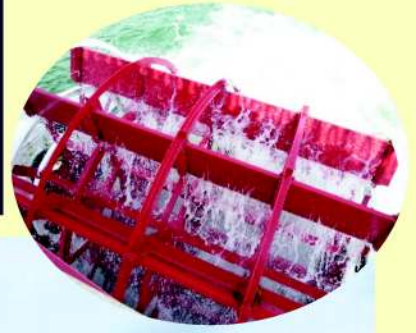
「時世」

成瀬 勝英 (裁断部)



休日のある朝、通い慣れた喫茶店へ行くと普段は駐車する場所も無い程、混雑する時間にも関わらず、車が1台も止まつていない。今日は休みか？と思いつつ店の前に立つと、暗い店の中には何も残っていない状態で店の看板も店名が消されている事に気付いた。潰れたか・・・つい2週間程前に来た時はそんな素振りも感じなかったのに。普通入口付近に告知なり、お世話になった等々の貼り紙さえ無い事が気にはなりましたが、気を取り直し違う店へ行く事に。道すがら何となく何故？という思いが頭を巡る。最近、身近でよく利用した店が廃業する事が多いのです。友人と会合で集まる店だったり、趣味で通った店だったり、習慣とも言える休日に行く店の選択幅が狭くなつていくようで淋しく思います。店を畳む原因の多くは収益の減少だと思われまふ。不景気だからといえどもそれまでですが、ある店は、朝礼の掛け声の為に、接客姿勢 ①返事は大きく ②常に笑顔 等店長の意気込みがレジ後ろの壁に貼られ、頑張っている姿勢が伝わる印象でした。世の中の変化に接客姿勢や精神論は通用しなくなつてきたと言ふ事かな？友人の1人はインターネットの評価を観て店を選ぶとか、自分自身も店では買わず、ネット通販で購入する機会が増えたと思ひます。お客様に取つて都合が良い選択幅が増えたと思える反面で実は、こうした店舗を運営する者にとり、減収の要因になつていふ事も有るのでは。情報が簡単に入手出来るようになった昨今、遠方でも評判の良い他の店へ行くでしようし、同じ物なら少しでも安く購入したい。これは心情です。昔ながらの方法や経験が通用しない時代です。今より不便で時間も掛かつた時代が少し恋しい気もする今日この頃です。歳をとつた証拠？

中部文具工業協同組合旅行 「琵琶湖・信楽」の巻き



毎年この季節では「中部文具工業協同組合旅行」が実施され、今年には琵琶湖のミシガン船・信楽陶芸村で陶芸を体験学習してきました。慣れない粘土…時間の経過とともにだんだん硬くなってしまい、なかなか自分の思い通りの形にならないものです。四苦八苦しながらようやくコップの形になったものの表面にひびが入れば焼き終わった後に割れることもあると聞きました。約2ヶ月後に焼きあがるので楽しみです。割れていなければいいけど・・・。

小原龍一(営業部)

【はじめまして】

大石 耕平 (研修中)



本年7月に入社しました、大石耕平です。八王子生まれ八王子育ち。28歳。家族なし。持ち家なし。貯蓄なし。
前職は海上自衛官を7年間勤め、ソマリアでの派遣海賊対処を最後に退職しました。退職後は1年間、かねてより夢であった世界一周を中学校の同級生と共に挑み本年5月に無事帰国。
訪れた国数は28ヶ国。(詳細はこちら↓ユメナビ <http://www.yumetabi-r.com/>)

平成23年6月初めて愛知の土地を踏み、慣れない土地の中で挑戦していくことを選び、こ森松株式会社に入社することに決めました。(来年度東京オフィス勤務予定。)
当然のことながら、銃器は扱えてもビニールなどの樹脂に関しての知識はもとより、加工、印刷など、全てがゼロからのスタートです。しかしながら、ベテラン社員の皆様のご指導のおかげで、3ヶ月たった今徐々にではありませんが理解が深まってきました。
限られた期間の名古屋本社勤務ですが、諸先輩から多くの事を学ばせていただき、今後の糧にさせていたただくつもりです。

至らぬ点が多いと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

家族忘年会

開催日：12月10日(土)
 時間：11時30分～13時30分 (受付開始：11時～)
 会場：中日パレス5F

11月の予定

30日(水)	30日(水)	26日(土)	25日(金)	24日(木)	23日(水)	19日(土)	18日(金)	15日(火)	12日(土)	5日(土)	3日(木)
小原龍一さん誕生日	小原龍一さん誕生日	第4土曜日休み	稲葉友昭さん誕生日	生産会議 12時～13時	勤労感謝の日	第3土曜日休み(休業実施日)	森松産業棚卸実施	岩間正美さん誕生日	第2土曜日休み	第1土曜日休み	文化の日
				CS向上会議 14時10分～15時							

12月10日(土)

第三十回 家族忘年会

会場：中日パレス5F
 時間：11時30分～13時30分

【中日ドラゴンズ優勝】

松井 宣和 (製造部)



中日ドラゴンズ優勝おめでとうござい
 す。8月2日に首位のヤクルトスワローズ
 に10ゲーム差付いたとき、実は名古屋ド
 ムへヤクルト戦を会長始めとして8名で観
 戦して負けてしまいました。応援の甲斐も無くドラゴ
 ンズは負けてしまいました。帰宅途中ふと思いつき
 など思いました。帰宅途中ふと思いつき
 した。昨年はジャイアンツに8ゲーム差の
 と。今年をひっくり返して優勝していたこと
 を。今年の優勝争いはヤクルトで、ジャイ
 アンツに比べたらまだチャクルトスあるかもし
 れない。・・・。
 戦4勝は実に見事でした。
 昨年優勝は野手の森野・和田選手が打
 ちまくってくれました。今年は、投手の吉
 見・浅尾選手が安定感ある投球でよく抑え
 てくれた。昨年同様、逆転優勝。球団史上
 初の連覇達成です。シーズン終盤で落合監
 督の退任が発表され、なぜこの時期に？ま
 た敗戦時に球団幹部のガッツポーズなど球
 団内にも敵がいると一部で報道されていま
 したが、現場の選手とコーチ陣が一致団結
 して成し遂げた優勝でした。
 の優勝は8年間で常に優勝争いに加わり4回
 まだ、クライマックスシリーズ・日本シリー
 ズがあり戦いが続きます。必ず日本一にな
 ると信じています。